
人と狐

狐月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人と狐

【Nコード】

N2976H

【作者名】

狐月

【あらすじ】

善狐とは、神の使いである。野狐とは、妖怪の一種である。人間とは、善と悪、良き心と醜き心を持つ獣である。この者達の進む道は、険しく悲しい道である。

出会いと別れ

ある日、山で「パーン」という音がした。

その音は、静かな山に木霊した。

山に住む全ての者たちは、音がした方に耳を向け、目を向け、体の向けると音がした方から
もう一度「パーン」という音がした。

山に住む者たちは、しばらく動けなかったが徐々にある者は、空を飛び又ある者は、木や岩に隠れるようになっていった。

しかし、岩の上に一匹だけ隠れようとしない狐がいた。

その狐は、善狐（神に仕える狐）である白狐だけは、隠れようとせずじつと音の鳴った方を見えていました。

しばらくすると音の方から風が吹いてきました。

その風には、みつつの匂いがありました。

ひとつは、木が焦げる匂いでもうひとつは、血が焦げる匂いそして後ひとつは、人間の匂い。

白狐は、その人間をずっと見ていました。

我が子を殺した人間をずっと見ていました。

善狐と妖狐

人間の足もとに我が子がいた、白狐の体は、全身が真っ白な毛で覆われているのに人間の足もとにいる我が子は、赤色の毛で寝ていた。

人間は、そんな我が子の足を縄で縛り、肩に担いで山を去っていった。

白狐は、人間の姿をずっと見ていた、我が子を見ずにずっと人間を見ていた、憎しみや悲しみ等の感情は、ないであろう瞳で人間をじっと見ていた。

白狐は、しばらく動きませんでした、他の山に住む者たちは、人間が山から去っていったら動き始めましたが白狐だけは、動かずに人間が歩いて行った方を見ていました。

どれくらい時間が経ったであろうか、辺りは、暗くなり善狐の時間から妖狐の時間になっても白狐は、動きませんでした。

そんな時、白狐の周りに五つの狐火が現れた。

一つ目の狐火は、赤狐である。（赤狐とは、赤毛の狐である）

二つ目の狐火は、黒狐である。（黒狐とは、黒毛の狐であり北山に住む神獣である。）

三つ目の狐火は、銀狐である。（銀狐とは、銀毛の狐であり月をシンボルとする狐である。）

四つ目の狐火は、金狐である。（金狐とは、金毛の狐であり日をシンボルとする狐である。）

五つ目の狐火は、天狐である。（天狐とは、歳は千を超え、尾は、四つあり神通力が使える神獣である。）

しかし、白狐は、その五つの狐火にも、まったく気づかずに人間が歩いた方をじっと見ていました。

そんな時でした、我が子のいた場所に人間の姿をした野狐が立っていました。

その野狐は、尾が九つあり周りの狐霊からは、白面金毛九尾の妖狐といわれる悪狐であり、

しかも、その九尾の妖狐は、なぜか悲しい瞳で白狐の子がいた場所を見ていました。

しばらくすると九尾の妖狐は、一言だけ白狐に言いました。

「なぜ、我が子は、死んだのか」と。

辺りは、シーンとしました。

しかし、白狐は、何もいいませんでした。

そんな白狐に九尾の妖狐は、「答える、誰が我が子を殺した」と再度聞いてきましたが白狐は、やはり何もいいませんでした。

我が子を殺された九尾の妖狐の怒りは、凄まじく月が見えていた空は、分厚い黒雲が静かだった大地は、激しく揺れ全ての者を震え上がらせた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2976h/>

人と狐

2010年10月9日07時21分発行